



10 古閑の滝ジオサイト

カルデラをつくる前の火山岩に架かる滝で、落差は約60m。水量が少なく、厳冬期には凍結し、美しい"水の滝"になることで知られています。



9 荻岳ジオサイト

阿蘇がカルデラをつくる前に活動し、カルデラをつくった巨大な火砕流に埋もれずに残った山。そのため、山頂からは阿蘇火山がつくる雄大な地形を眺めることができます。



8 麓坊中ジオサイト

加藤清正によって再興されたといわれている町。比叡山延暦寺の末寺で、九州最古の寺といわれている西巖殿寺は、江戸時代に現在の場所に再建され、この一帯は古坊中に対して麓坊中と呼ばれています。



14 阿蘇黄土ジオサイト

カルデラに水がたまっていた名残を残すサイト。マグマの成分や有機物が微生物の働きなどで鉄分を多く含む土になり、古代より赤色塗料（ベンガラ）などに使われ、現在は有害物質吸着剤、家畜のえさにも使われています。



13 二重峠ジオサイト

たていわたつのみこと
健甞龍命が外輪山を蹴破ろうとしても、二重になっているから破れなかったという神話が名前の由来になったといわれています。阿蘇カルデラの入り口として参勤交代の石畳も残されています。



12 阿蘇谷湧泉群ジオサイト

阿蘇谷東部の一の宮・役犬原地区では、いたる所に湧泉があります。中央の火山群に降った雨が地下にしみこみ、一帯で勢いよく自噴する珍しい地域です。



11 火山の神ジオサイト

たていわたつのみこと
阿蘇開拓の神「健甞龍命」を祀る阿蘇神社を中心に、国造神社、中通古墳群など、阿蘇の人々の火山信仰を感じるサイト。阿蘇独特の祭事である「火焚き神事」が行われる霜宮神社もあります。

阿蘇市外のジオサイト

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 17 押戸岩ジオサイト | 26 南郷谷ジオサイト |
| 18 北外輪火砕流ジオサイト | 27 羅漢山ジオサイト |
| 19 小国郷温泉ジオサイト | 28 俵山峠カルデラジオサイト |
| 20 池山・山吹ジオサイト | 29 立野峡谷ジオサイト |
| 21 参勤交代道ジオサイト | 30 白糸の滝ジオサイト |
| 22 草部ジオサイト | 31 大峯火山ジオサイト |
| 23 らくだ山ジオサイト | 32 蘇陽峡ジオサイト |
| 24 南阿蘇湧泉群ジオサイト | 33 幣立宮ジオサイト |
| 25 地獄・垂玉温泉ジオサイト | |



16 ミルクロード草原ジオサイト

北外輪に広がる広大な草原と、ミルクロード沿いに見られる火山灰土から、草原の成り立ちについて学ことができます。



15 内牧温泉ジオサイト

田園地帯の中に、約80の源泉と30近い宿泊施設が散在する温泉地。これまでに夏目漱石、種田山頭火、与謝野鉄幹・晶子夫妻など多くの文化人が訪れており、この地で生み出された作品も多くあります。

interview



阿蘇ジオパーク推進協議会事務局

片山 彰 氏

阿蘇ジオパークの主役は、

「世界で一番美しいカルデラ」に住むあなたです。

カルデラに住むこと 自体が特別なこと

ジオパークとは、あらゆる地球上の活動を分かりやすく見ることができる場所のことです。よく「大地の公園」とも訳されますが、中国語では「地質遺産」と言ったりもします。珍しい場所や貴重だからということだけではなく、ガイドさんがいったり、解説板が設置されていたりと、特徴が初めて訪れた人にも分かりやすく整備されていることがジオパークに認定される条件になっています。

阿蘇ジオパークの特徴は、火山活動によって形成されたカルデラ地形です。過去に大きな影響を及ぼした超巨大噴火が起きた火山、それが阿蘇です。国内外にもカルデラはありますが、中に水がたまっていたり、噴火により地形が崩れたりするなどして、阿蘇のようにカルデラの壁、底、今の火山がセットで美しく残っ

ているものはそんなに多くありません。

「世界で一番美しいカルデラ」。その中に街がつくられ、人々が住んでいること自体が本当に特別なことなんです。阿蘇に訪れた外国人は「こんな場所に住んでいて大丈夫なのか」とか、「こんな美しい場所に住むことができたいね」と、誰もが驚いたようすで話します。そんな阿蘇の素晴らしさを客観的にさまざまな角度から見るともジオパークを知る上で大切なことなのです。

阿蘇ジオパークの見所ジオサイトを巡ることを「ジオツーリズム」といいます。現在、5つのモデルコースがあり、それぞれテーマ性がある面白いです。きれいな景色を見て帰るだけでなく、そこに付加価値をつけて、これまでの観光の形にジオの要素を加えることにより、新たな価値が生まれ、また阿蘇に行こうというリピートにもつながります。

ジオパーク推進協議会とは？

阿蘇ジオパーク推進協議会は、約40の団体で組織されており、阿蘇火山博物館内に事務局を構えます。事務局ではジオパークに関する講演会や、ジオガイドの育成のほか、PR活動を展開しています。
〒869-2232
阿蘇市赤水 1930-1 阿蘇火山博物館 1F
阿蘇ジオパーク推進協議会 (阿蘇ジオパーク推進室)
☎ 34-2089 HP:<http://www.aso-geopark.jp/>



世界認定に向けて、さまざまな取り組みを展開しています。5月26日には、香港世界ジオパークでシニアオフィサーを務めるヨン カミン氏を招き講演会を開催。同氏は世界認定に向けて必要なこととして「阿蘇に住む人たちが阿蘇の素晴らしさに気づくことが大事」と、アドバイスしました。(写真右がヨン氏)

認定されたら みんなで喜びを共有しよう

これからの課題として挙げられるのが、「ジオパーク」という言葉が市民の皆さんにまだまだ浸透していないということ。横文字で抵抗感があるかと思いますが、難しいものではなく、自分たちの生活している領域、阿蘇での生き方そのものがジオパークなんです。皆さんにぜひ分かってもらいたいことは、自分たちはすごいところ

に住んでいるということ。何気なく見ている自然や文化に気づき、興味を持つことで新たな街の魅力の発見にもつながります。そして、ぜひ周りの人に阿蘇の魅力をどんどん発信してもらいたいと思います。

7月末によいよ世界認定の現地審査が行われます。世界認定のハードルは非常に高いですが、阿蘇は素材的にとっても期待されていると感じます。世界ジオパークは4年間の免許制で4年毎に審査が行われます。地域の人たちが築き上げてきたもの

やこれまでの取り組みを継続していくことが重要になってきます。結果発表は9月末。認定決定の際には、市民の皆さんで盛り上がり、自分たちの住む場所が認定を受けたことに誇りを持ってもらいたいです。世界認定は大きな価値があります。皆さんで喜びを共有しましょう。

いよいよ間近にせまる現地審査

市民のジオパークへの親しみや活気も、審査の大きなポイントです！

7月30日～8月2日の4日間、世界認定へ向けた世界ジオパークネットワーク(GGN)による現地審査が行われます。

火山がつくる貴重な地形的、地質的価値のあるジオサイトをどのように守り、活用しているか。火山とともに暮らしてきた先人たちの知恵を受け継ぎながら、特有の風土とどのように向き合い、将来を担う子どもたちへ継承しているのかなど、阿蘇ジオパークのこれまでの取り組みと価値を様々な場所で確認していただきます。

今回はユネスコから派遣された中国とイタリアからの審査員2名をお迎えし、大観峰や中岳・阿蘇神社などカルデラ内外のジオサイトの他、観光案内所や物販施設なども見て回られます。もし、沿道で審査団お見かけした時は、手を振るなどあたたかいご声援をお願いします！



ジオガイドによる中岳火口案内のようす



阿蘇ジオパークの魅力を
動画で紹介！